



日本金融機関証券ファンド2013-12(愛称 J-ブリッド2013-12)

Q1. 2016年6月以降の運用状況を教えてください。

A1. 6月23日に実施された英国の国民投票において市場の予想に反して英国のEU(欧州連合)離脱が決定したことを受け、金融市場でリスク回避姿勢が強まったことで当ファンドの基準価額も若干下落しました。しかし、その後は情勢を見極めたいとの思惑の広がりとともに値を戻しています。  
 11月1日には英スタンダードチャータード銀行が2017年1月30日の永久劣後債の初回期限前償還を見送ると発表したことにより債券価格が約14%急落し、欧米の金融機関が発行するハイブリッド証券の中にも連れ安するものがみられましたが、当ファンドの基準価額はほとんど影響を受けていません。  
 また、11月8日に投開票を迎えた米大統領選挙でトランプ氏がインフラ投資や減税などの「トランプノミクス」を掲げて勝利したことを受け、米国の10年国債利回りが2%台半ばまで急騰しました。しかしながら、繰上償還の蓋然性の高い初回コールまでの期間の短いハイブリッド証券を組入れる当ファンドは概ね安定した値動きを続けています。

基準価額および純資産総額の推移

2016年12月14日現在



期間: 2014年2月28日～2016年12月14日

※ 基準価額(税引前分配金再投資)は、分配実績があった場合に、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものと計算しています。

※ 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬は控除されています。

※ 当ファンドは、ベンチマークを設定していません。

※ 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

基準価額および純資産総額

基準価額	10,060円
前日比	-25円
純資産総額	1,492百万円

※ 基準価額は、分配金控除後です。

期間別騰落率

過去1ヵ月	+0.08%
過去3ヵ月	+0.05%
過去6ヵ月	+0.18%
過去1年	+0.49%
過去3年	-
過去5年	-
設定来	+2.92%

※ ファンドの騰落率は、当ファンドに分配実績があった場合に、税引前の分配金を再投資したものと計算しており、実際の騰落率とは異なります。

※ 設定来のファンド騰落率は、10,000円を基準として計算しています。

※ 騰落率には、信託報酬(設定日)の影響も反映しています。

分配実績(1万口当たり、税引前)

2014年12月	50円
2015年6月	50円
2015年12月	50円
2016年6月	50円
2016年12月	30円
設定来	230円

※ 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。

日本金融機関証券ファンド2013-12(愛称 J-ブリッド2013-12)

Q2. どのような銘柄を組入れているのですか？

A2. 2016年11月末時点は以下の通りです。

種類別構成比率

種類	純資産比
優先出資証券	86.8%
国債証券	10.4%

構成比率

	純資産比
公社債	97.15%
コール・ローン等	2.85%

金融機関グループ別構成比率

	純資産比
三井住友FG	44.6%
三菱UFJFG	42.1%

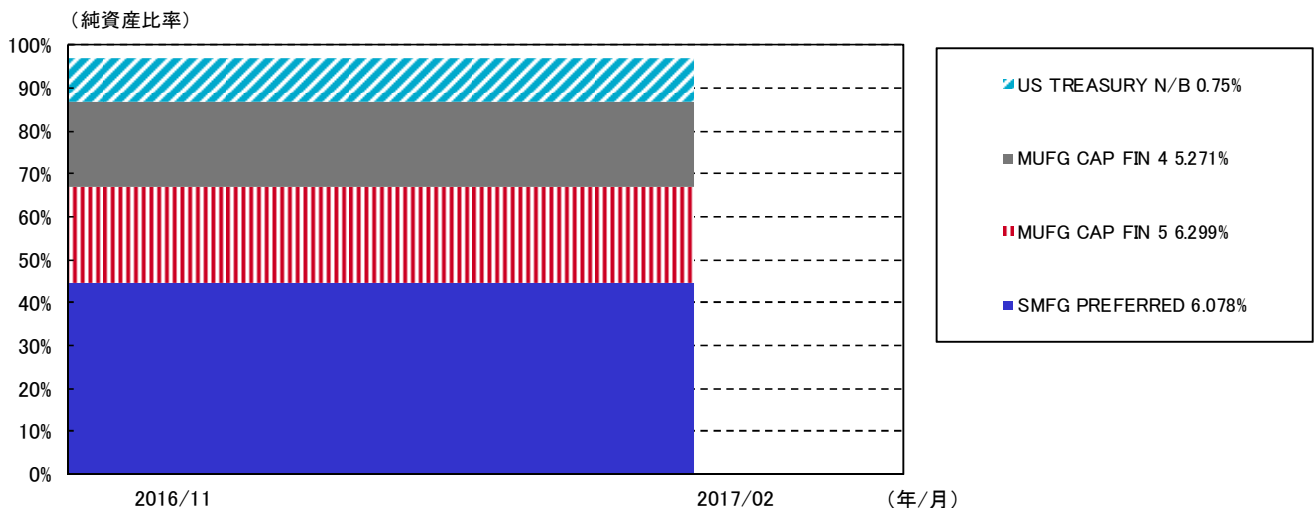
通貨別構成比率

通貨	純資産比
アメリカ・ドル	55.0%
イギリス・ポンド	22.3%
ユーロ	19.8%

組入銘柄一覧

銘柄名	種類	通貨	クーポン(%)	評価単価	コール償還日	純資産比
1 SMFG PREFERRED 6.078%	優先出資証券	アメリカ・ドル	6.078	100.26	2017/01/25	44.6%
2 MUFG CAP FIN 5 6.299%	優先出資証券	イギリス・ポンド	6.299	100.24	2017/01/25	22.3%
3 MUFG CAP FIN 4 5.271%	優先出資証券	ユーロ	5.271	100.33	2017/01/25	19.8%
4 US TREASURY N/B 0.75%	国債証券	アメリカ・ドル	0.750	100.03	2017/01/15	10.4%
組入銘柄数						4銘柄

<ご参考>コール償還日の分布状況



※ コール償還の実施は発行体の任意で行われるため、必ずしも初回コールされるとはかぎりません。  
 ※ 保有する証券が償還した場合は、原則、ハイブリッド証券に再投資を行います。マーケット動向等によっては、再投資を行わず、公社債、短期金融商品等による運用を行う場合があります。  
 期間：2016年5月31日～2017年1月25日

Q3. 今後の運用方針を教えてください。

A3. 当ファンドは2017年2月10日に満期償還をむかえます。残存期間が約2ヵ月と短くなっており、運用期間中に償還を迎えた銘柄については再投資を行わず、短期有価証券、短期金融商品等の安定資産による運用を行います。

日本金融機関証券ファンド2013-12(愛称 J-ブリッド2013-12)

Q4. 今後も安定した値動きが見込まれますか？

A4. 当ファンドは、元本の安全性を重視して設計した投資信託です。原則として、発行体は日本の大手金融機関グループであり、信託期間満了日(2017年2月10日)までに次の繰上償還を迎える銘柄のみに投資することにより、信用リスク・金利変動リスクを低減させる運用に努めています。また、外貨建て資産については、為替のフルヘッジを行い、為替変動リスクを低減する運用を行います。今後、米国の政策金利の引き上げに伴い、将来の為替ヘッジコストの上昇も懸念されますが、当ファンドの利回りを上回るほどの急激な上昇は見込み難いと考えられます。

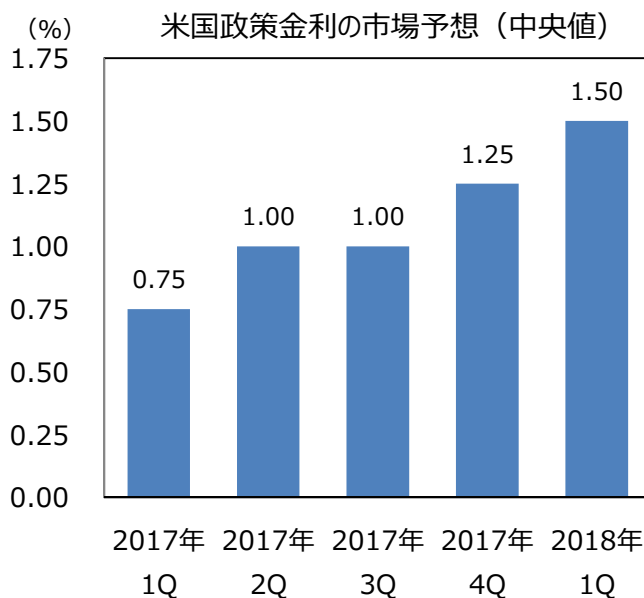
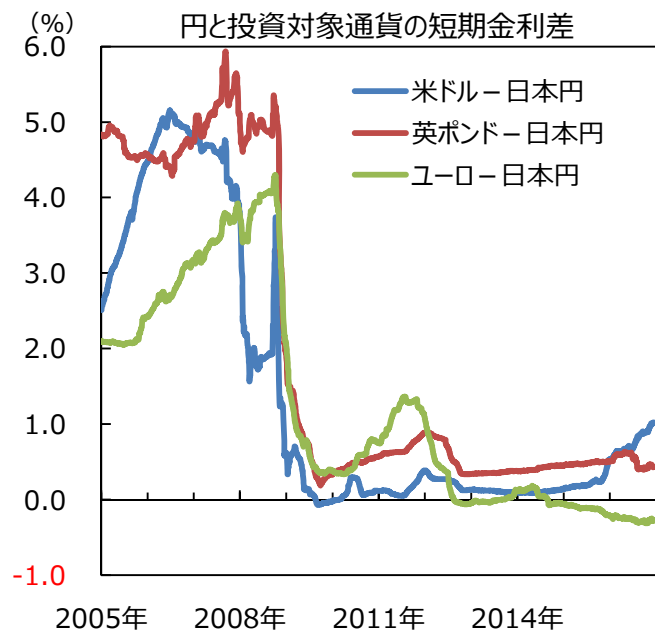
Q5. 分配金はどのように確定したのですか？

A5. 基準価額水準、市場動向(組入れられている有価証券の価格やヘッジコストの動向)等を総合的に勘案し、分配金を50円から30円に引き下げました。

ポートフォリオの状況

平均残存期間	0.2
修正デュレーション	0.1
平均終利	3.8%
平均直利	5.4%

※ コール・ローン等を除いて算出しております。  
 ※ 「ポートフォリオの状況」については、初回コール償還されたと仮定して計算しています。コール償還とは、発行体が債券発行時に定めた条項に基づき、満期前に繰上げて償還できる権利のことです。ただし、コール償還の実施は発行体の任意で行われるため、必ずしも初回コールされるとはかぎりません。  
 ※ 平均終利、平均直利は、ファンド組入銘柄等の利回りの加重平均等により算出したものであり、ファンド全体の期待利回りを示すものではありません。



出所) Bloombergより作成 左図:各通貨の短期金利:米ドル、ユーロ、英ポンド、円:3ヵ月Libor、右図:Bloomberg予想値  
 期間)左図:2005年1月3日~2016年12月13日、右図)2016年12月13日現在

※ 為替ヘッジコストは、あくまでも簡便法によって算出された試算値であり、実際の値とは必ずしも一致しません。簡便法は為替ヘッジコストを(為替取引対象通貨の短期金利)-(ポートフォリオの構成銘柄の短期金利)で算出する方法です。ただし、当該通貨に対する市場参加者の期待や需給等により、その取引価格に反映する為替ヘッジコストは、金利差から理論上期待される水準と大きく異なる場合があります。

Q6. 分配金は課税対象となるのですか？

A6. はい。分配金は課税対象となります。







